

○事業所名	olea AZUMADA		
○保護者評価実施期間	2026/1/5		2026/2/28
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2026/1/5		2026/2/28
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026/3/17		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画の質・職員間共有の徹底	児発管を中心に全職員参画のもとアセスメントを実施し、こどもと保護者のニーズを反映した児童発達支援計画を作成しています。計画は全職員に共有し、日々の記録をもとに実践・振り返りを徹底しています。	モニタリングの実施頻度を高め、計画見直しのサイクルをより体系化します。
2	安全管理・緊急時対応体制の整備	各種マニュアル・BCP・安全計画を整備し、定期的な避難訓練を実施しています。ヒヤリハット事例を全職員で共有し再発防止に取り組んでいます。	マニュアルの定期的な見直しと実践的な訓練の充実を継続します。
3	保護者への丁寧な説明と支援	利用開始時の説明・計画の同意取得・日々の連絡帳での情報共有・個別相談対応・保護者会の開催を実践しています。	ペアレント・トレーニング等の体系的な家族支援プログラムの導入を検討し、家族支援をさらに充実させます。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	生活空間の構造化・障害特性に応じた環境整備	事業所のスペースの制約と、構造化手法に関する職員の知識・経験の不足が主な要因として考えられます。	構造化・視覚支援に関する研修受講と視覚的ツールの積極的な導入により、こどもが見通しを持って活動できる環境を整備します。
2	就学移行支援と小学校等との連携	就学先の小学校・特別支援学校との接触機会が少なく、情報共有の仕組みが十分に整備されていないことが要因です。	就学移行を早期から計画し、小学校等との定期的な情報交換の場を設けて移行支援を充実させます。
3	モニタリングの実施・外部評価の導入	モニタリングの実施頻度のばらつきと、外部評価機関の選定・費用面の課題が要因として挙げられます。	モニタリングの実施計画を明確化するとともに、外部評価の導入に向けて計画的に取り組めます。

事業所名	olea AZUMADA
------	--------------

公表日 2026/3/17

利用児童

数 3

回収数 3

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	3					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	3					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	3					
適切 な支 援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	3					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	3					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	3					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	3					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	3					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	3					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1	2				
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	3					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	3					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3					
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	3					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	3					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	3					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3					

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	3				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	3				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	3				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	3				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	3				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	3				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	3				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	3				
	29	事業所の支援に満足していますか。	3				

事業所名	olea AZUMADA
------	--------------

公表日 2026/3/17

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		利用定員の範囲内で発達支援室等のスペースを適切に活用し、安全な療育環境を確保しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	1	基本的な職員配置を確保しながら、利用状況に応じた柔軟な対応を行っています。	時間帯や欠勤等で配置が手薄になることがあるため、シフト管理の見直しと担当制の整備を進める必要があります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	3	視覚的な手がかりやゾーニングを活用し、こどもが活動を見通ししやすい環境づくりに取り組んでいます。	構造化された環境整備とバリアフリー対応をさらに充実させ、継続して改善する必要があります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		日常的な清掃・整理整頓を徹底し、こどもが心地よく過ごせる清潔な環境を維持しています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		必要に応じてスタッフルーム等を個別スペースとして活用できる体制を整えています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	1	定期的な職員会議でPDCAサイクルを意識した目標設定と振り返りを実施しています。	全職員がPDCAサイクルに参画できる仕組みをさらに整備・強化する必要があります。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	1	年1回の保護者向けアンケートを実施し、結果を職員間で共有しています。	アンケート結果を業務改善に具体的に反映するプロセスをより明確化する必要があります。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	1	職員ミーティングや個別面談を通じて職員の意見を把握する機会を設けています。	職員が意見を言いやすい環境を整え、意見を業務改善に着実につなげる仕組みを強化する必要があります。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	1	自己評価を通じた内部改善に継続的に取り組んでいます。	外部評価機関を活用した第三者評価の実施に向けて、計画的に取り組む必要があります。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		法人内外の研修機会を確保し、全職員が年間を通じて研修を受講できる体制を整えています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		支援プログラムを文書化し、ホームページ等で公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		児発管が中心となり保護者との面談を通じてニーズを把握した上で、児童発達支援計画を作成しています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		支援会議を定期的で開催し、全職員が共通理解の下で個別支援計画の作成に関与しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		個別支援計画を全職員に配布・共有し、計画に沿った支援の実施を徹底しています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		日々の行動観察記録を蓄積し、こどもの適応行動の変化を定期的に確認しています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		本人支援・家族支援・移行支援・地域支援・地域連携の各側面を意識した計画を作成しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		定期的な職員会議でチームとして活動プログラムを立案し、役割分担を明確にしています。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		季節行事や体験活動を取り入れ、毎月プログラムを見直すことで固定化を防いでいます。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3	1	こどもの特性に応じて個別活動と集団活動を組み合わせた支援を行っています。	全児童に最適な活動の組み合わせができるよう、アセスメントに基づく計画立案をより精緻化する必要があります。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		支援開始前の職員打合せを毎日実施し、当日の支援内容と役割分担を全員で確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	4		支援終了後には必ずミーティングの時間を設け、気づきや課題を職員間で共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		日々の支援記録を徹底し、記録をもとに支援の振り返りと改善を行っています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	2	2	定期的なモニタリングを実施し、保護者との面談を通じて計画の見直しを行っています。	モニタリングの実施頻度と計画見直しの判断基準をより明確化・体系化する必要があります。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	1	サービス担当者会議には担当職員が積極的に参加し、こどもの状況を十分に共有しています。	参加できない場合の情報共有の代替方法を整備し、連携の質を高める必要があります。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		医療機関・保育・教育等の関係機関との連携ルートを整備し、必要に応じて情報共有を行っています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	2	併行利用やインクルージョン推進の観点から、保育所等と連携した支援を検討・実施しています。	インクルージョン推進に向けた保育所・幼稚園等との情報共有と相互理解をより積極的に進める必要があります。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	3	就学に向けた支援として、小学校等との情報共有に取り組んでいます。	就学移行を見据えた小学校・特別支援学校との連携を早期から計画的に始める必要があります。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			(センターのみ回答項目のため、当事業所は対象外)	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。			(センターのみ回答項目のため、当事業所は対象外)	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			(センターのみ回答項目のため、当事業所は対象外)	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	1	地域の児童発達支援センターと情報交換を行い、連携を図っています。	スーパーバイズや研修の機会をより積極的に活用し、支援の質向上につなげる体制づくりが必要です。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	3	保育所や地域の子ども達との交流機会の検討を進めています。	保育所・幼稚園等との具体的な交流機会を計画・実施できるよう、働きかけを強化する必要があります。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		連絡帳や送迎時の対話を通じて、日々のこどもの様子を保護者と丁寧に共有しています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	1	保護者向けの情報提供や個別相談を実施し、家族の対応力向上を支援しています。	ペアレント・トレーニング等の体系的な家族支援プログラムの導入・充実を検討する必要があります。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		利用開始時に運営規程・利用者負担等について丁寧に説明し、疑問には随時対応しています。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		計画作成時には保護者との面談を実施し、こどもと家族の意向を丁寧に確認しています。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		個別支援計画を保護者に説明し、内容を確認の上で同意を得てから支援を開始しています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		日常的な相談に応じるとともに、必要に応じて個別面談の機会を設け、適切な助言と支援を行っています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		保護者会や交流行事を通じて、保護者同士が交流できる機会を提供しています。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		苦情受付窓口を設置し、受付から解決までの対応手順を整備・周知しています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	1	HPやSNSを活用して事業所の活動情報を定期的に発信しています。	情報発信の頻度を高め、より多くの情報をタイムリーに届ける工夫をする必要があります。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	1	個人情報の取扱いについて職員に周知し、適切な管理体制を整えています。	個人情報管理の手順書整備と定期研修を通じて、全職員の意識向上をさらに図る必要があります。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		絵カードやICTツールを活用するなど、こどもの特性に応じたコミュニケーション手段を工夫しています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	1	地域のイベントへの参加や関係機関との交流を積極的に行っています。	地域住民を招いた行事の開催など、地域に開かれた事業運営をさらに推進する必要があります。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	1	各種マニュアルを整備し、避難訓練等を定期的に実施して職員・保護者へ周知しています。	マニュアルの内容を定期的に見直し、発生を想定した実践的な訓練をさらに充実させる必要があります。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		業務継続計画（BCP）を策定し、定期的な避難・救出訓練を実施しています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		利用前に保護者から服薬・てんかん等の情報を収集し、全職員で共有した上で支援に臨んでいます。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		医師の指示書を確認し、食物アレルギーのある児童への対応を全職員で徹底しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		安全計画を策定し、定期的な研修と訓練を通じて安全管理を徹底しています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		安全計画の内容を保護者に説明し、家庭での対応についても丁寧に共有しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハット報告書を整備し、事例を全職員で共有して再発防止に取り組んでいます。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		虐待防止に関する研修を定期的実施し、不適切な対応がないよう職員意識の向上を図っています。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4		身体拘束に関する組織的なルールを定め、保護者への事前説明と個別支援計画への記載を徹底しています。		